



# 市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ㊟秘書課 ☎ 36-7117

## 今月のテーマ 街路樹の落ち葉は迷惑ですか？

立秋が過ぎてもまだまだ暑い毎日です。緑生い茂るこの季節に晩秋の話題で恐縮ですが、今月は、市内の街路樹の剪定と落ち葉の問題についてお話します。

毎年、秋口になると、「街路樹の落ち葉が側溝や雨どいに詰まる前に、枝を落としてほしい」「落ち葉で滑って転んだらどうする」など、市民の皆さんから多くの苦情が寄せられます。一方、「枝を全て落として鉛筆のようになった街路樹を見るのは忍びない」「葉っぱ一枚残さず落としてしまうのが剪定なのか」などというご意見も、市長への手紙などで多く寄せられます。まちの「緑」は、市の文化力・市民力の表れと考える私は、毎年、皆さんの相反するご意見を複雑な気持ちで受け止めています。

例えば、当市の姉妹都市リッチモンド市がある米国カリフォルニア州は、降雨量が極端に少なく、人間が手を掛けなければ「緑」を維持できません。芝生も街路樹も、日々、住民が水やりをしています。ですから、街路樹の落ち葉に文句をいう市民はいないそうです。また、モンゴル国ナラン外国語学校から訪れた子どもたちは、島田の印象を聞かれ、「緑が多くて美しいまち」「こんなきれいなまちだと思わなかった」と表現しました。モンゴルは冬季の寒さが厳しく、やはり「緑」が少ないそうです。



プラザおおり南側の街路樹

街路樹を剪定する目的は、伸びた枝をただ切り落とすのではなく、樹木の健康を保ち都市の美観を守り育てるためです。「緑の景観のまちづくり」といってもよいでしょう。市は、樹木の寿命を延ばすために、5年に一度は強めの剪定（活性化）を実施しています。特に、プラタナスなどの根の張りが弱く強風で倒木しやすい街路樹は、強めの剪定を繰り返してきました。その結果が右のような景観です。皆さんは、どのような印象を持たれますか。



剪定されたプラタナス (市道横井御仮屋線)

市民の皆さんには多様な意見があり、全員一致の解決は難しいのが現実です。高齢化が進み、落ち葉清掃が地域住民の負担になっていることも分かります。だからこそ、議論を重ねる必要があると考えます。そうした中、市道横井御仮屋線の街路樹について、市と地域の皆さんで検討を始めました。今年度末には、その結論が出る予定です。

市民と行政が街路樹の必要性や維持・保全について考え、協議の結果、「街路樹はいらない」と地域の皆さんが判断されるなら、ツツジなどの低木に植え替えることも可能です。花壇にするという選択もあります。皆さんの地域のイメージや住み心地に関わる緑と街路樹の保全について、自治会などで話し合っただけだとありがたいです。

## みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などを紹介します。

島田髷まつりを題材にした右の写真が、内閣府主催の伊勢志摩サミット「世界に届けたい日本フォトコンテスト」で、カルチャー部門の優秀賞を受賞しました。

このフォトコンテストは、平成28年5月に開催されたG7伊勢志摩サミットの機会に合わせて、日本の地域の魅力や文化、自然などの素晴らしさを世界の人たちに伝えるため実施されたもので、1万7,104点(カルチャー部門4,919点)の応募があったそうです。撮影者の木村博さん(愛知県)、優

秀賞受賞おめでとうございます。

次のサイトで、この島田髷まつりの作品を含め、同フォトコンテストの入賞作品を見ることができます。素晴らしい作品ばかりですので、ご覧いただければと思います。☞<http://www.japan.go.jp/g7/photocon/> (鈴木房雄さん:島田髷まつり保存会)

